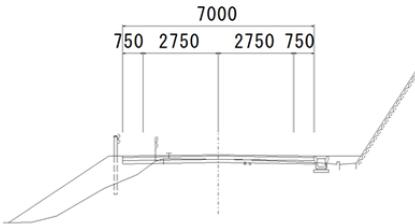
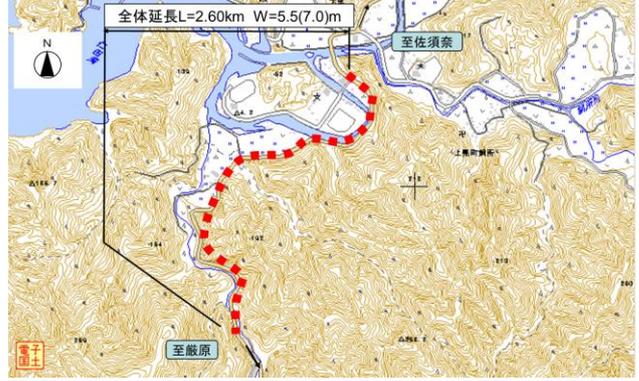


# 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：対馬振興局上県土木出張所

担当課長名：宮崎 祐介

事業名	一般国道382号（ <small>かしたきかくふく</small> 榎滝拡幅）		事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県対馬市上県町 <small>ながさきけんつしまし かみあがたまち</small> 至：長崎県対馬市上県町 <small>ながさきけんつしまし かみあがたまち</small>		延長	2.6 km		
事業概要	一般国道382号（榎滝拡幅）は現道拡幅及び線形改良により、走行性の向上と観光をはじめとする対馬の産業の活性化を目的に整備を行う事業。					
H24年度事業化	都市計画決定 なし		H26年度用地着手	H27年度工事着手		
全体事業費	38億	事業進捗率	48%	供用済延長	0.79 km	
計画交通量	1,997台/日（R22）					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.23 (残事業) 2.00	総費用 (残事業)/(事業全体) 19.24/42.70億円 〔事業費：18.92/42.24億円 維持管理費：0.32/0.46億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 38.49/52.51億円 〔走行時間短縮便益：36.65/50.19億円 走行費用減少便益：1.78/2.25億円 交通事故減少便益：0.06/0.06億円〕	基準年 令和6年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 【全体事業】交通量変動：B/C=1.11~1.36（交通量 ±10%） 事業費変動：B/C=1.14~1.35（事業費 ±10%） 事業期間変動：B/C=1.13~1.32（事業期間 ±20%） 【残事業】B/C=1.57~1.93（交通量 ±10%） B/C=1.60~1.93（事業費 ±10%） B/C=1.61~1.84（事業期間 ±20%）					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行性の向上（現道拡幅及び線形改良による走行性の向上）</li> <li>・交通安全性の向上（現道拡幅及び線形改良による交通安全性の向上）</li> <li>・防災機能の向上（災害時の緊急輸送道路としての機能強化）</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	「対馬市」より整備促進の要望が行われている。					
事業再評価監視委員会の意見	—					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	—					
事業の進捗状況、残事業の内容等	令和2年度末までの事業進捗率は48%で、用地進捗は93%と進捗しており、今年度も用地取得を継続して行い、令和8年度の事業完成を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	用地取得に日数を要したが、地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き事業の進捗を図り、令和7年度の事業完成を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	—					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。					
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>位置図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>標準断面図</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。



# 令和6年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

## 再評価対象事業

道建-13 道路改築事業  
一般国道382号  
(桜滝拡幅)

事業主体 長崎県

再評価の理由 再評価後変更(事業費・工期)



1

## 1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	備考
		着工	完了			
当初 (H24新規)	—	H24	R1	15.0	1.84	【工事概要】 延長2.6km 幅員5.5(7.0)m
第1回審議 (R3年度)	事業採択後 10年経過	H24	R7	30.0	1.23	【当初評価からの変更概要】 軟弱地盤対策による事業費増 法面・落石対策による事業費増 用地取得遅延による工期の延長 追加対策工事による工期の延長
第2回審議 (R6年度)	再評価後変更	H24	R8	38.0	1.18	【前回評価からの変更概要】 土質改良の追加による事業費増 単価等の上昇による事業費増 用地取得遅延による工期の延長

2

## 2. 目的・事業概要・これまでの経緯

### ◆目的

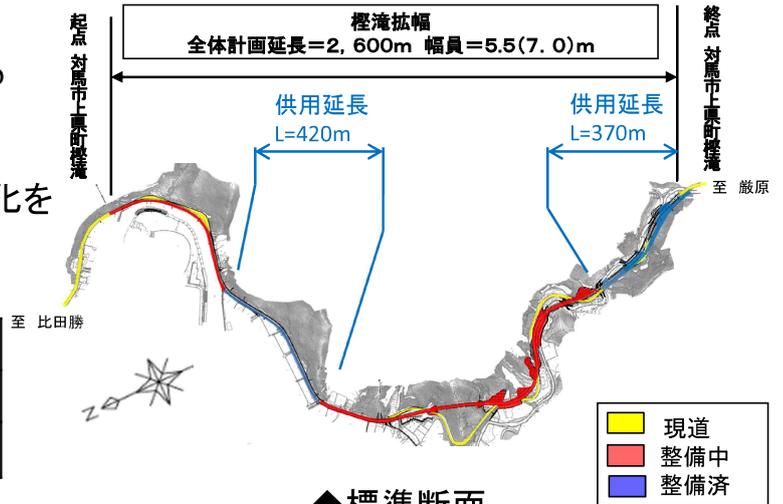
桜滝拡幅は、一般国道382号における延長約2.6kmの未改良区間であり、隘路及び線形不良区間の解消による走行性向上や緊急輸送道路の機能強化を目的としている。

### ◆事業概要

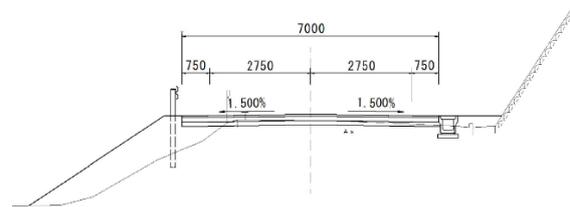
計画延長等	L=2.6km
幅員	W=5.5(7.0)m
計画交通量(R22)	1,997台

### ◆事業経過

平成24年度	事業化
平成26年度	用地買収着手
平成27年度	工事着手
令和5年度迄	790m供用開始



### ◆標準断面



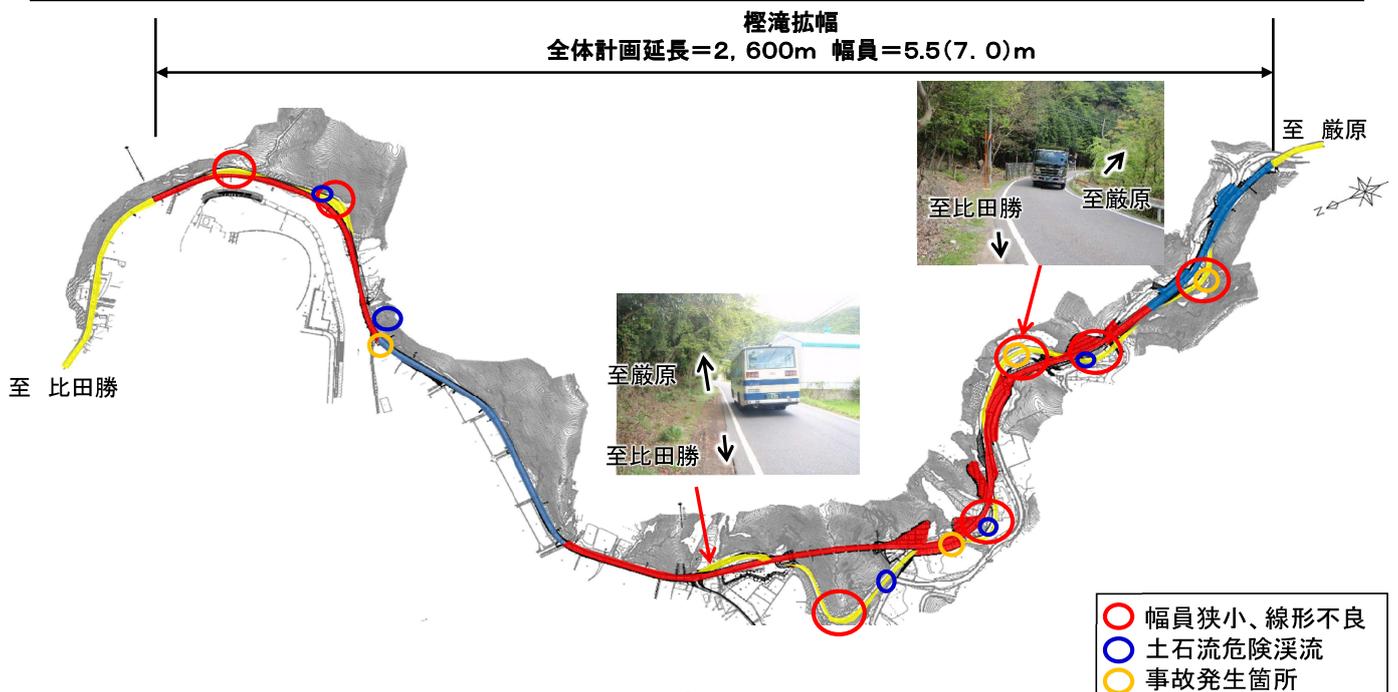
【令和6年3月末】  
 事業進捗率 48% (事業費ベース)  
 用地進捗率 93% (面積ベース)  
 (R5.3末)

3

## 3. 事業の効果・必要性

### <走行性の向上及び緊急輸送道路の機能強化>

- ・幅員狭小及び線形不良により通行に支障をきたしており、事故等も発生している。
- ・緊急輸送道路であるが、土砂災害危険箇所がある。
- ・道路改良による通行車両の走行性の向上および交通安全性の向上が期待される。

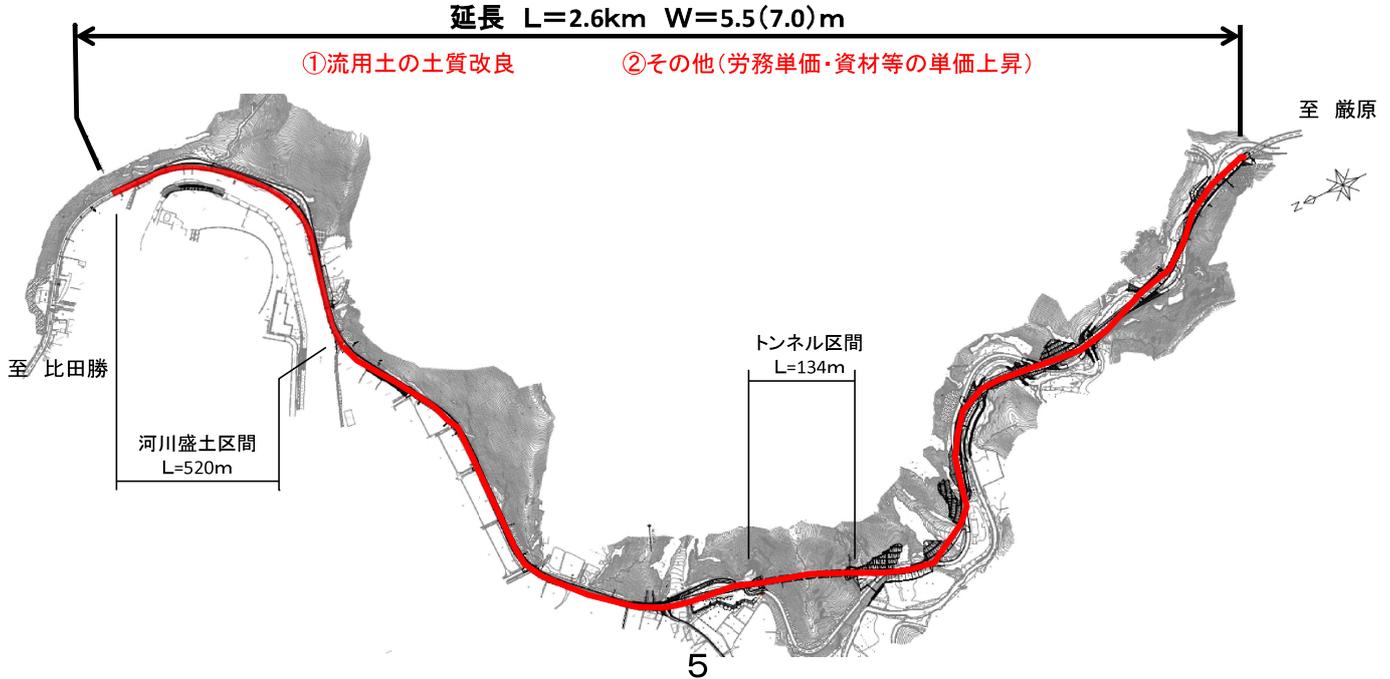


4

## 4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

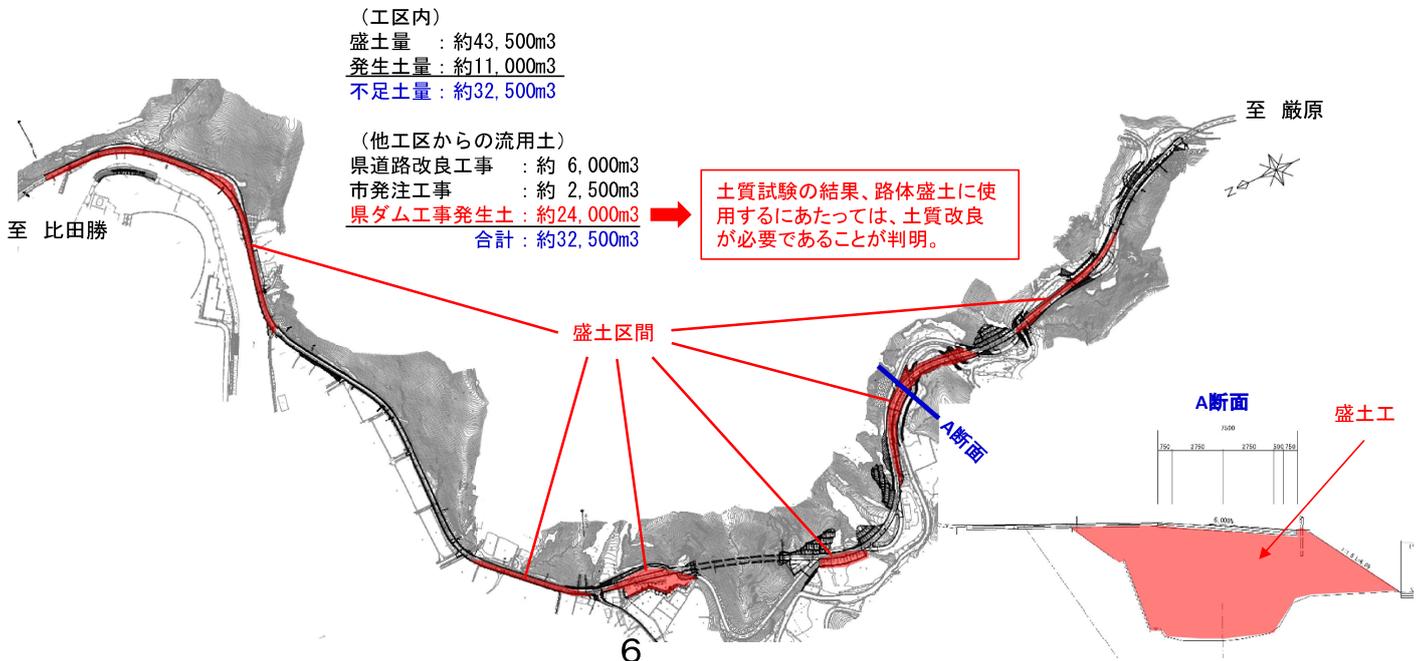
【事業費増】  
30.0億円(前回)  
⇒38.0億円(今回)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①流用土の土質改良	約 1.5 億円	路体盛土に使用する流用土の土質改良の追加
②その他	約 6.5 億円	労務・資機材単価等の単価上昇のため
計	約 8.0 億円	



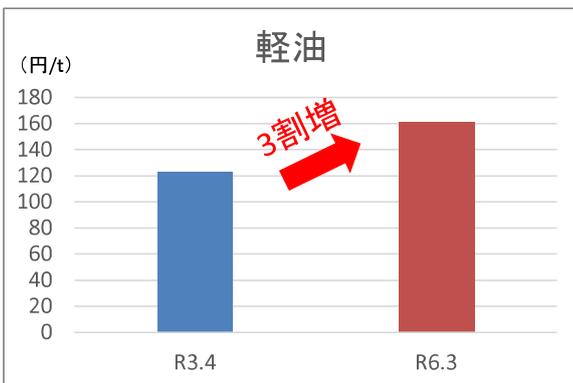
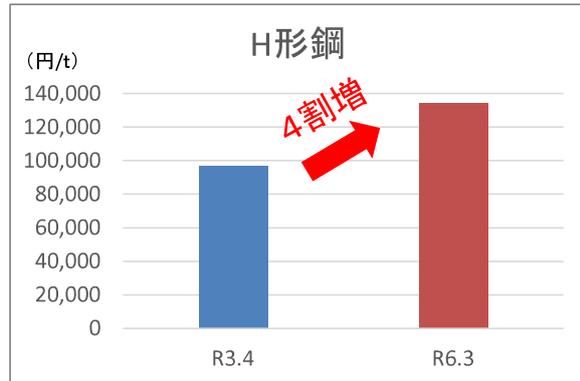
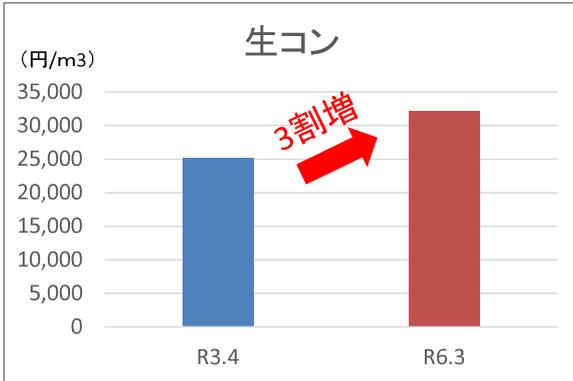
## 4. 事業の進捗状況(事業費の増加) 流用土の土質改良

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①流用土の土質改良	約 1.5億円	盛土工に用いる土砂のうち工区内発生土で不足する土砂について、他工区からの流用を想定していたが、そのうち近隣のダムにおいて発生する土砂について、土質試験を行った結果、路体盛土に使用するにあたっては土質改良が必要な土質であったため、土質改良工事の追加が必要となった。



## 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
②その他	約6.5億円	社会情勢の変化による資材・労務費の単価上昇など(R1⇒R6増額分)



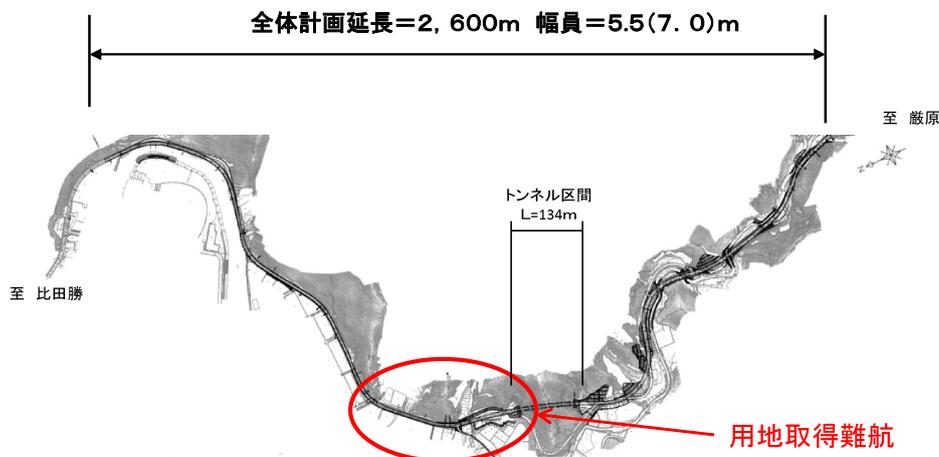
その他、労務費などの増額分を計上する。

7

## 4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】R7(前回)→R8(変更)

・代替地要求により用地取得に時間を要しているため。



当初	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
測量・設計	■	■	■											
用地				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
工事														

⇒

変更	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
測量・設計	■	■	■												
用地				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
工事															

8

## 5. 事業の投資効果

### ◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和3年度)	今回評価 (令和6年度)
残事業	1.75 = 29.26億円 / 16.74億円	1.93 = 38.49億円 / 19.24億円
全事業	1.23 = 38.47億円 / 31.17億円	1.18 = 52.51億円 / 42.70億円

#### [費用]

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

#### [便益]

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

#### [プラス要因]

- ・費用便益分析マニュアルの改定  
→原単位(時間価値、走行経費)の増加

#### [マイナス要因]

- ・事業費の増  
・事業期間の延長

### ◆ B/Cでは計測できない効果

- ・緊急輸送道路の防災機能強化

9

## 6. 対応方針(原案)

- ◆ 一般国道382号における延長約2.6kmの未改良区間であり、走行性の向上及び交通安全性の向上に寄与する事業である。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約48%[18.4億円/38.0億円](令和5年度末)であり、用地進捗率は面積ベースで約93%となっている。
- ◆ 対馬市からも整備促進を要望されている。
- ◆ 事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果が見込まれる。

